

放送・通信融合時代の ホームネットワーク製品動向

金子 浩美 ● 株式会社 FIS 代表取締役

地デジ対応TVチューナーを搭載し大画面化するパソコン ワンセグ対応の進む携帯電話、ロケーションフリーなど

地デジ対応チューナーを搭載したパソコンやワンセグ放送を受信できる携帯電話などが登場している。また、番組ガイドをパソコンや携帯電話などで利用できる「電子番組ガイド」(EPG)のサービス提供もすでに開始されている。内容やレベルはともかくとして、通信と放送の融合はすでに始まっていたと考えることができるだろう。そして、通信と放送の両方を利用する製品は、決して少なくない。

■ EPG (Electric Program Guide)

EPGのサービスは、1997年にテレビ朝日データビジョンが「ADAMS-EPG」として開始したのが、国内では最初である。ただし、番組表の配信に、地上アナログ放送の電波の隙間(データ多重放送用の領域)を利用しており、専用のハードウェアをパソコンに接続するなどの必要があった。これに遅れて、インターネットを利用して番組表を配信する「ADAMS-EPGPlus」のサービスも始まった。ADAMS-EPGPlusは、専用のハードウェアを必要としないほか、番組表をリアルタイムで受信できるというメリットがある。

1998年には、インタラクティブ・プログラム・ガイドが「Gガイド」としてEPGのサービスを開始した。ADAMS-EPGと同様にデータ多重放送の領域を利用して番組表を配信するが、専用ハードウェアを別に用意するのではなく、テレビやTVチューナーなどに内蔵するのが、Gガイドの特徴になっている。また、NTTドコモのFOMA90Liシリーズなどに対応した携帯電話向けEPG「Gガイドモバイル」も提供されている。

ADAMS-EPG(ADAMS-EPGPlus)とGガイドのいずれも視聴者は無料で利用できるが、Gコードのほうが機器メーカーに対するライセンス料を低く設定していることなどから、Gコードの採用が圧倒的に多い。また、これら以外にもナノ・メディアの「TVnano」、東京ニュース通信社の「インターネットTVガイド」、au(KDDI)の「EZテレビ番組ガイド」といったEPGが各社から提供されている。

EPGがDVD/HDDレコーダーの使い勝手に大きく影響しているという意見を異口同音に聞くことを考えても、EPGが通信と放送の融合を実現するためのキーテクノロジーと考えることができるだろう。

■ 地デジ対応TVチューナー内蔵パソコン

最初にTVチューナーを内蔵したパソコンは、1982年に登場したシャープのX1と考えられる。さらにシャープは、1987年に発売したX68000で、ソフトウェアによるTVチューナーのコントロールなどを可能にした。その後、TVチューナー内蔵パソコンは、表舞台からは消えていたが、2005年夏頃には数社の地デジ対応TVチューナーを内蔵したパソコンが揃い、再び注目を集めるようになった。ただし、地デジ対応にあたっては、著作権保護のための対処が求められており、たとえば、拡張スロットに地デジ対応TVチューナーを差すだけでは済まない。このため、現在、地デジ対応TVチューナー内蔵パソコンを発売しているのは、限られたメーカーだけとなっている。

日本電気は、2004年1月に地デジ対応パソコンを初めて発売した。現在は、デスクトップ型のVALUESTARのタイプX、タイプC、タイプLスタンダード、タイプW(デジタル放送対応)が地デジに対応している。ただし、一体型のタイプW(デジタル放送対応)以外の機種で、地デジを視聴するには、「デジタルチューナー内蔵 20型ワイドスーパーシャインビュー EX2液晶」を選ぶ必要がある。これは、ディスプレイにTVチューナーが内蔵されていることを意味し、ディスプレイとパソコン本体を独自仕様の専用ケーブルで接続することになる。このため、受信後のデコードなどは、TVチューナー側(ハードウェア)が行うことになるので、受信にあたってパソコン側に負荷がかかることはなく、パソコンを起動せずに地デジを視聴することも可能である。

富士通は、デスクトップ型ではFMV DESKPOWERのTXシリーズとLXシリーズが地デジに対応している(いずれも一体型)。パソコン側でデコードなどを行っている点が、日本電気と大きく異なる。また、ノート型ではFMV BIBLOのNXシリーズで地デジへの対応、LOOX Tシリーズでワンセグへの対応を行っている。

東芝は、ノート型パソコンのQosmioシリーズで地デジへの対応を行っている。エントリーレベルの1モデルを除く3モデルで地上アナログ放送と地デジの両方を受信できる。自社開発のTVチューナーを搭載し、2番組同時録画に対応している。

ソニーは、VAIOシリーズのtype V、type H、type R、type X Livingの一部モデルで地デジへの対応を行っている。また、ノート型のtype Tでワンセグへの対応を行っている。これらの中でもtype X Livingは、AV機能を充実させたモデルで、1TBの大容量ハードディスクやデジタルハイビジョンチューナーを選択できるほか、放送中の番組を最大90分までさかのぼって視聴できるタイムシフト機能、録画した内容をホームネットワークへ配信する機能などを備えている。

日立は、Prius Airのtype Rとtype G、Prius Oneのtype Wとtype Sで地デジへの対応を行っている。いずれの機種も日本電気と同様にハードウェアでデコードなどを行っているが、TVチューナーは、ディスプレイではなくパソコン本体に内蔵している。

これらのほか、シャープのインターネットAQUOSもTVチューナー内蔵パソコンと考えることができる。これは、32型または37型のテレビにパソコンを組み合わせた製品で、テレビ（ディスプレイ）側とパソコン本体側の両方にTVチューナーを内蔵しているので、地デジの視聴だけならパソコン本体を起動する必要がない。パソコン部分は、通常のパソコンとして使うよりも、ストリーミング放送の視聴や複数人でウェブサイトを開覧するような用途に向いている。

■ ワンセグ端末

現時点で最も身近なワンセグ端末は、携帯電話と言ってさしつかえないだろう。携帯電話キャリアで最も早くワンセグへの対応を行ったのがau（KDDI）で、本稿の執筆時点では、W41H（日立製）とW33SA（三洋電機製）の2機種が提供されている。W41Hは、2.7インチワイド液晶（240×400ドット）を備え、最大3時間45分の連続視聴が可能である。また、最大約30分の録画も可能となっているほか、タイムシフト機能を使えば、ワンタッチあるいは自動で約2分間の録画と1.3倍速での再生が可能となる。なお、EZweb経由で提供されるEPGを使って視聴の予約を行うことができる。一方のW33SAは、ワンセグに対応した携帯電話の第1号である。画面は、2.4インチ（240×320ドット）で、連続視聴時間は、最大2時間45分となっている。

NTTドコモからは、P90iTV（パナソニック製）が提供されている。2.5インチ液晶（240×345ドット）で、連続視聴時間は、最大3時間となっている。iアプリにより、EPGを利用することも可能である。

ボーダフォンからは、905SH（シャープ製）が2006年5月に発売される。折りたたみ式の本体を開いてディスプレイ部を90度回転させることで、端末の方向を変えずに16：9の横長ワイド画面（2.6インチ、400×240ドット）での視聴

が可能となる。

ワンセグ端末ではないが、山手線では、ドアの上部に設置された15インチの液晶モニターで、地デジ（受信環境によって12セグメントとワンセグを切り替え）によるナイター中継を生放送するという実験が2006年4月に行われた。つくばエクスプレスなどで無線LANの接続実験が行われていることを考え合わせると、鉄道が移動手段だけでなく、通信と放送も提供できるようになることも十分に考えられる。

■ ロケーションフリー

ソニーのロケーションフリーは、ロケーションフリーベースステーションLF-PK1にTVチューナーやDVDプレイヤーなどを接続し（地上アナログ放送のTVチューナーは内蔵されている）、無線LAN（IEEE802.11a/b/g）を利用してPSP（プレイステーション・ポータブル）や専用ソフトウェアをインストールしたパソコン、あるいはロケーションフリーテレビで視聴できるようにする。また、NetAV機能を使えば、自宅などに設置したベースステーションに接続したAV機器の映像をインターネット経由で視聴できる。たとえば、海外から日本の自宅に設置したベースステーションを操作して、日本のテレビ放送を視聴することも可能である。2006年3月には、ACCESSに対してソフトウェアを提供することが発表された。携帯電話やWindows Mobile搭載機などで視聴できるようになるのも時間の問題であろう。

■ DLNA

ソニーのハイビジョンテレビBRAVIA X seriesは、46型と40型の両方がDLNA認定を受けており、動画、音楽、静止画の再生（クライアント）に対応している。前出のVAIO type X LivingはDLNAのサーバーに対応しているので、たとえば、VAIO type X Livingで録画して、BRAVIA Xで視聴するといったことが可能になる。

東芝では、DVD/HDDレコーダーRD-X6とRD-T1、液晶テレビfaceのZ1000シリーズとZ150シリーズ、前出のQosmioシリーズがDLNAの認定を受けている。

バッファローでは、LAN接続ハードディスク（NAS）のHS-DGLシリーズとHS-DTGL/R5シリーズがDLNAの認定を受けており、サーバーとしてコンテンツを提供できる。

これらのほかにも、デノン、デジオン、シャープ、富士通などの製品がDLNA認定を受けている。

今回は取り上げることができなかったが、カーナビもワンセグへの対応を進めており、すでにワンセグ対応TVチューナーを内蔵した機種も登場している。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp